

2024年新春講演会

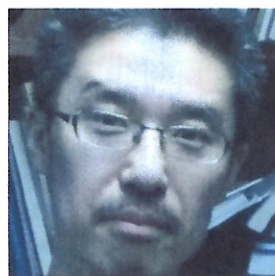
パレスチナ問題

ガザ・ジェノサイドの 歴史的意味と市民社会の課題

今ガザで起きていることは、パレスチナ史、いや世界史に刻まれることになるジェノサイドである。それが歴史的出来事だと言える理由は、単なる人的被害の大きさによるものではない。より深刻ともいえる理由は、「西側諸国」がガザの惨状を知りながらイスラエルの攻撃を支援し、停戦に向けた圧力形成を妨害し続けていること、その際、パレスチナ人に対する露骨な人種差別を隠そうとしなくなっていることである。

パレスチナ人に対するジェノサイドを止める事は、他の多くの被抑圧者に対して起こり得るジェノサイドを予防することであり、私たち自身の未来を獲得するために避けて通ることのできない課題なのである。

(科学的社会主義2024年2月号 役重善洋論文より抜粋)



講師：役重善洋

敬愛大学 経済学部 非常勤講師

【役重善洋講師プロフィール】

- ・同志社大学人文科学研究所所属研究員
- ・パレスチナの平和を考える会事務局長
- ・共書：「近代日本の植民地主義とジェンタイル・シオニズム」他多数

◆日時：2024年2月18日（日）

13時～15時（12時30分受付開始）

◆会場：林野会館 6階 604会議室

所在地：東京都文京区大塚3-28-7

☎03-3945-6871（代）

地下鉄丸ノ内線「茗荷谷駅」下車 徒歩10分

主催：新春講演会実行委員会（連絡先：03-5826-4017）

